



from DAITO
大東

地域住民らと歌碑の完成を祝い、先人の功績をたたえました

真澄と慶明の足跡を刻む

顕彰歌碑の除幕式を開催

“真澄と慶明「歴史とロマンの里」史跡保存会”による歌碑除幕式は3月15日、大原地内で催され、地元住民と関係者が参列しました。歌碑には「菅江真澄遊覧の地」の文字と、旅日記「はしわのわか葉」に残る真澄と慶明が詠んだ和歌が刻まれました。保存会長の芳賀光雄さんは「二人の功績を地域の誇りとして、多くの人に伝えていきたい」と話していました。

菅江真澄は、江戸時代後期の紀行家、民俗学者。天明6(1786)年に大原村を訪れ、肝入りの芳賀慶明宅に滞在し、「はしわのわか葉」を執筆したと伝えられています。



from SENMAYA
千厩



上／おみつ(左)、佐之介(中)の温かい心に触れ改心する久助(右)
左／おみつの祈りが通じて恵みの雨が、喜びに沸く村人たち

方言も豊かに創作劇熱演

市民劇場どっから座公演

千厩地域市民劇場の第6回どっから座公演「祈りが実る里—地蔵田物語」は2月23日、千厩体育館で催され、約550人の観客が手づくりの演劇を楽しみました。

オリジナル脚本による舞台は、水不足と凶作に苦しみ、争いや不幸が絶えない奥玉村。お地蔵様のお告げではるばる旅してきた佐之介、政次郎兄弟は、平和を願う村娘おみつの心に打たれて荒地を開墾、つくられた田はやがて「地蔵田」と呼ばれ、村人たちも協力します。ひかれ合うおみつと佐之介。しかし、二人の仲をやっかむ久助により佐之助に水泥棒の疑いが、おみつの祈りが通じて恵みの雨が降り、村人の必死の訴えで佐之助の疑いも晴れます。改心する久助。こうして村にはようやく平和が訪れました。

12月から練習を重ねてきた皆さんは、それぞれの役をユーモラスに、時に切なく熱演。親しみのある方言やなじみの地名がちりばめられたせりふに客席から笑いが沸き起こり、大団円に盛んな拍手を送っていました。最前列で熱心に観賞した80代の女性は「皆さん大きな声で、演技も上手。なじみの方言もあって親しめました」と語りました。

どっから座の菅原正憲座長は「実行委員会やキャスト、スタッフの努力はもちろんですが、何よりも地域の皆さんの協力と、寒い中来てくださったたくさんの皆さんのおかげで、感動ある舞台をつくり上げることができました。仲間を増やしてこれからも続けていきたいですね」と大成功の感激を語りました。

ひな人形に変身したよ!

田河津児童館でお誕生会

田河津児童館(園児43人)の「ひなまつりお誕生会」は3月4日に行われ、3月生まれのお友だち二人が祝福を受けました。

お祝いされたのは、那須野陽愛ちゃん(6才)と小山聖陽ちゃん(4才)の二人。園児一人一人が一生懸命作ったひな人形が飾られたステージでそれぞれの特技を披露した後、二人にお友達から「お誕生日の歌」、先生から手作りの「ひな人形変身セット」がプレゼントされました。早速変身セットを身に付けた二人は、まるで本当のお内裏様、おひな様のようにでした。



from HIGASHIMAMA
東山

たくさんのプレゼントを手をうれしそうに二人



from MURONE
室根

さらなる発展を目指しあいさつする小山会長

両市の交流の継続を誓う

室根・吉川の交流10周年

室根・吉川交流協会(小山謂三会長、会員110人)は3月15日、創立10周年を記念して式典と祝賀会を催しました。

両市の関係団体や同協会員ら約90人が出席。交流の先駆けとなった吉川市体育指導委員協議会をはじめ、ホームステイやスポーツ交流、吉川市民まつりでの物産販売など、本市との交流の一役を担ってきた7団体に感謝状と記念品が贈呈されました。

小山会長は「記念式典を新たな協会の出発点とし、交流がさらなる発展を遂げられるよう会員一同力を合わせまい進みたい」と決意を述べ、今後の交流の継続を誓いました。

卒業を祝ってプレゼント

かよう学校お守り贈呈式

金沢公民館の高齢者学級「かよう学校」のお守り贈呈式は3月4日、金沢小6年生児童15人を招き行われました。

加藤正男館長は、「かよう学校の生徒が真心込めて作ったお守り袋には、金沢八幡神社で交通安全、学力向上を祈念していただいたお守りが入っております」と説明。生徒代表の菅原はしめさん(85)がお祝いの言葉を述べ、6年生代表の佐々木葵さんにお守りが手渡されると、大きな拍手が沸きました。最後に皆が一緒に「若者たち」を合唱し、互いにエールを送りました。

4月に同小に入学する新入生21人にも、入学式でこのお守りが贈られます。



from HANAIZUMI
花泉

卒業して中学に進む6年生と、新1年生のために贈られたお守り



from KAWASAKI
川崎

音楽もいろいろな意味で「和がキーワード」と語る太田代さん

音楽でつながる人の「和」

生涯学習活動講演会開催

川崎公民館主催の生涯学習活動講演会は3月9日、盛岡市出身のシンガーソングライター太田代将孝さんを迎え、「一人十色」と題して講演とミニライブを行いました。

太田代さんは終始軽快な語り口で、「自分にとっては音楽こそ生涯学習」とし、自分の生い立ちや現在の多彩な音楽活動を紹介しながら「声」は誰もが持っている楽器だが自分の生き方が表れるので、音楽は楽しくやること、好きであることが大事。大人数でできるので人との和(輪)を作ることができる」と講演。後半はピアニストの北田了一さんとジャズ風にアレンジした「上を向いて歩こう」などを熱唱し、会場を魅了しました。

衣装と音響設備を新しく

猪岡獅子舞保存会が整備

猪岡獅子舞保存会(石川功会長)は(財)自治総合センターのコミュニティ助成事業の補助を受け、獅子頭と獅子舞の衣装、太鼓、横断幕や音響設備などを整備しました。

同会では、会員数が減少し、また担い手の年齢層が上がっていることから、後継者として小学生とその親の層を育成したいと、今回新たに子ども用の用具も揃えました。石川会長は「資機材の整備をきっかけに子ども獅子舞の練習もスタートします。幅広い年齢層で取り組むことで、地域の伝統芸能を次世代に確実に伝えていく契機になります」と喜びを語りました。



from ICHINOSAKI
一関

新しい衣装をまとい意欲を新たにした猪岡獅子舞保存会の皆さん